



参加してくれるはずの地域の方が急に参加できなくなっていました。けれども、そば作りについて「みんなで力を合わせて一粒でも落とさないように」気をつけることをお手紙にしたためてくださったそうです。そして、その手紙をきっかけに、これまで以上にものごとに真面目に取り組むことができるようになった子どもたちでした。

さらに、山を活動の場とした学習には炭焼き体験があります。間伐材を利用して炭を作るのですが、子どもたちはいろいろな長さの間伐材を定型にそろえ、炭焼き釜の中に並べる場面で活動します。焼きあがった物は、2月のバザーに出品することでした。けれども、最近は、炭焼きに適した硬い木が少なくなってきており、学習を続けにくい状況になってきているそうです。初めてのことにも臆せず挑戦していく子どもたち。天候に左右され成長も収穫量も思うに任せないそば作りなど長期的な学習に取り組む中で、見通しを持ってものごとに取り組んだり、粘り強く取り組んだりする態度が育ってきている子どもたちです。学校教育の中に豊かな体験活動を位置付け、実践する過程で、子どもたちが、着々と力を付けていく姿が手応えとして感じられます。

校長先生からは、卒業していった子どもたちが、豊かな原体験を基に中学校でもさまざまな活動に全力でがんばる姿が見えているという話を聞くことができました。

人とかかわり、自然とかかわり、文化にふれる活動。豊かな体験活動が子どもたちの心に根付き、現在、未来に息づいていくことでしょう。

【中部教育事務所 小島 ふみ子】

---